学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

2017年10月号
vol. 240

特集

一人ひとりが活躍する“今”を目指して

～男女共同参画に向けた取り組み～

一人ひとりが活躍する“今”を目指して

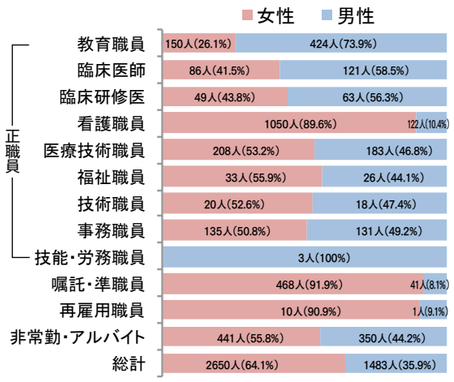
～男女共同参画に向けた取り組み～

平成28年4月に「女性活躍推進法」が施行されるなど、社会的にも男女共同参画が推進される中、学校法人兵庫医科大学では、全教職員が性別にかかわりなく個性と能力を十分に発揮するとともに、充実した家庭生活を送ることができるよう、男女共同参画に積極的に取り組んでいます。これらの取り組みについて、ご紹介します。

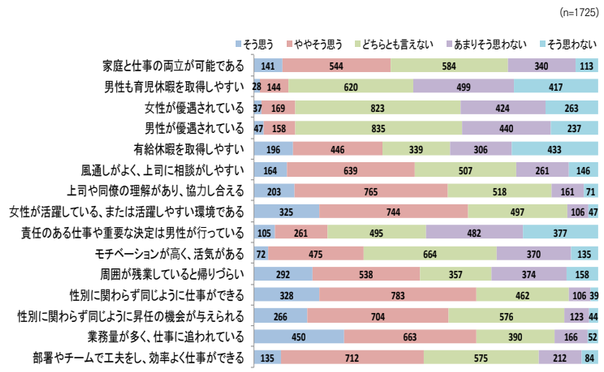
◆ 学校法人兵庫医科大学　男女共同参画に関するデータ ◆

在籍者における男女比率

※役員を除く（平成29年3月31日時点）



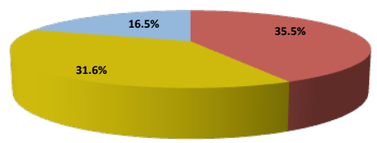
職場の雰囲気について



育児休業の取得について

(n=643※子どもがいると回答した人)

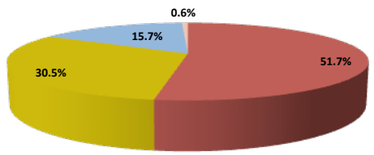
		全体	男性	女性
■	取得した	228	6	222
■	取得しようと思わなかった	203	104	99
■	取得したかったができなかった	106	37	69



男性の育児休業について

(n=1725)

		全体	男性	女性
■	当然の権利	891	149	742
■	仕事が落ち着いている、部署の人手が足りているのなら可	526	131	395
■	双子出産時や産後の妻の体調不良など状況により可	271	59	212
■	取得する必要はない	11	3	8



育児休業を「取得しようと思わなかった」理由※		
男性	1位	配偶者が育休取得/専業主婦/離職により育児に専念、また、そのための経済的理由
	2位	時代背景/制度自体がなかった(※ 別の職場含む)
	3位	男性だから/そのような発想・概念がない/必要ない
女性	1位	結婚もしくは妊娠・出産を機に離職/育児に専念するため離職、出産後に就職(当時は専業主婦)
	2位	制度自体がなかった(※ 別の職場含む)
	3位	仕事優先/周囲に遅れを取る/仕事を早く覚えたい/収入確保

育児休業を「取得したかったができなかった」理由※		
男性	1位	職場の雰囲気、風潮、環境/男性の育休取得が認識されていない/社会通念上言い出せる雰囲気ではなかった/前例がない
	2位	多忙/業務の代理がいない/職場に迷惑がかかる/(職場に)居場所がなくなる
	3位	制度がなかった
女性	1位	制度がなかった、整っていなかった/制度があったのかわからない/制度が浸透していなかった(※ 別の職場含む)
	2位	妊娠により退職を勧められた(別の職場)/復帰の自信が持てず離職/結婚・妊娠で離職せざるをえない時代/妊娠時の体調不良により離職
	3位	多忙/業務の代理がいない/職場に迷惑がかかる/人員不足のため早めの復帰

男女共同参画社会とは

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のこと。
（『男女共同参画社会基本法』第一章第二条の一より）

学校法人兵庫医科大学では、下記の６つの基本方針に基づいて、それぞれ行動計画（アクションプラン）を定め、具体的な活動を行っています。

＜基本方針＞

1．ポジティブ・アクション※の推進
　※組織内の男女労働者の間に事実上生じている差がある時、それを解消すべく行われる自主的かつ積極的な取り組みのこと
2．大学運営における意思決定への女性の参画拡大
3．ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の確立
4．性差別のない環境の構築
5．男女共同参画に関する意識改革のための教育、広報・啓発活動
6．男女共同参画に関する取り組みの地域社会との連携、および国際社会との連携

具体的な取り組み例

女性管理職を増やすための取り組み

女性が管理職として活躍できる雇用環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定しています。

◆本法人の課題

採用における競争倍率、勤続年数に男女で大きな差は見られないが、事務職員において管理職（課長級以上〔以下同じ〕）に占める女性割合が低く、女性が管理職を目指せる職場風土が整っていない。

◆目標

女性管理職が少ない事務職において、管理職の女性の人数比率を10%まで引き上げる。

◆取り組み

○ 事務職の女性職員を対象として管理職育成を目的としたキャリアアップ研修の実施
・研修ニーズや職員の意識把握のため、職員に対しアンケートやヒアリングなどを実施。
・アンケート等の結果を踏まえた研修プログラムの構築。
・キャリアアップ研修の実施。

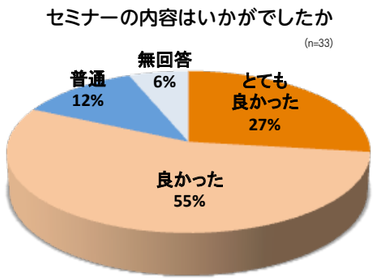
○ 育児休業、短時間勤務、有給休暇など福利制度の活用と、ノー残業デーなどワークライフバランスの推進
・学内ネットにおける人事制度情報ページの改善。
・職員に対しアンケートやヒアリングを行い、仕事と家庭の両立や業務の効率化について工夫していること、提案や意見などを聴取、分析し、学内に周知する。
・福利制度などのリーフレット・パンフレットなどを作成して配布する。
・福利制度やノー残業デーなどのポスター等を掲示する。

○ 女性活躍推進意識醸成のための講演会等の実施
・講演会の方針、テーマの決定。男女共同参画に精通した講師の選出。
・外部講演会等について積極的に周知を行い、職員の参加を促す。

ワークライフバランス確立のための取り組み

◆管理職向けワークライフマネジメント研修の実施

平成29年1月、「旧態依然とした働き方を見直し、限られた時間でよりよい成果を出すためのマネジメントへの転換」を目的に、ワークライフマネジメント研修を実施しました。講師には、社会保険労務士・キャリアコンサルタントで、NPO法人ファザーリング・ジャパン関西の副理事長も務められている天野勉氏をお招きし、社会的背景と「働き方改革」の必要性、「ワークライフバランス」の考え方、今後の働き方やマネジメントの工夫などについて、個人ワークも盛り込んで実施。管理職職員など男女合わせて34人が参加しました。



（平成29年1月30日管理職向けワークライフマネジメント研修アンケートより）

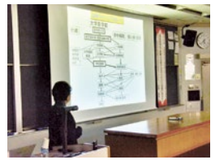
女性医師の活躍のための取り組み

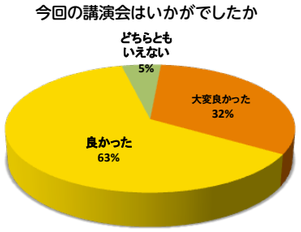
◆女性医師支援プロジェクト企画 FD講演会の開催

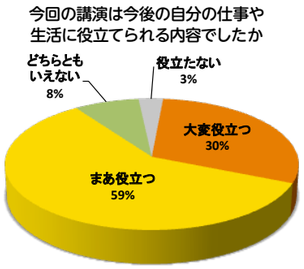
平成28年6月に、女性が医師として働き続けるための多面的支援および医学生育成のためのプロジェクトチームが発足。そのキックオフ講演会として、平成29年2月に女性医師支援プロジェクト企画FD講演会を開催しました。

女性のみならず男性も含めた全ての医師の働き方の変革と充実したキャリア形成を目的としたこの講演会では、公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院の前副所長兼腎臓内科部長であり、同病院の男女共同参画委員会初代委員長を務められた武曾惠理先生をお迎えして「男女医学生・医療人の豊かなキャリアパス実現に向けて」と題してご講演いただきました。

医師やメディカルスタッフのほか、医学生や大学院生、研修医なども参加。「家庭と仕事の両立は医師のキャリアパスを考える上で非常に重要な問題であることが改めて理解できた」「復帰プログラムや病児保育など、女性が働きやすい労働環境づくりへの取り組みが印象的だった」などの感想が聞かれました。







（平成29年2月27日女性医師支援プロジェクト企画 FD講演会アンケートより）

子育て支援の取り組み

◆病児保育室「ゆりかご」

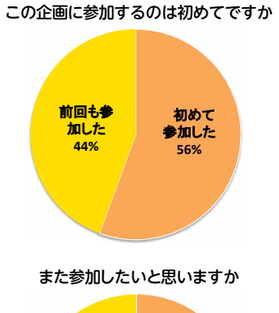
学校法人兵庫医科大学は平成28年4月に病児保育室「ゆりかご」を開室し、急な発熱やケガなどで一般の保育施設で預かることができないお子さんを、保護者の方に代わって看病・保育しています。兵庫医科大学病院の医師・看護師と連携し、保育サービスを充実させることで、教職員や学生が安心して育児と仕事・勉学を両立できるよう支援しています。

◆ママさんパパさん交流会の開催

医師、教員、メディカルスタッフ、看護部、事務員からなるワーキンググループを結成し、全教職員を対象にした交流会を企画し、定期的に実施しています。育児をしながら働いている教職員をはじめ、妊娠中、育児休業中の教職員も参加が可能です。

5月に開催した交流会では、こどもの有無に関わらず交流会に興味のある教職員にも参加を呼びかけるとともに、配偶者が学外の方でも夫婦で一緒に参加できるようにし、5組のご夫婦を含む35名（女性22人、男性13人）の参加がありました。

小グループでの座談会では、職種の枠を超えて育児や復帰について悩みや情報を共有し、育児支援サービスの活用方法や乗り越え方など、育児の先輩がアドバイスする姿も見られました。また、医師グループの座談会では、育児をしながら医師として働き続けるための工夫や今後の課題などについて、活発な意見交換が行われました。



（平成29年5月20日ママさんパパさん交流会アンケートより）

◆看護部では「ママさんナース交流会」も

兵庫医科大学病院に勤務する看護師の約25%は既婚者。子育てをしながら仕事を続けている看護師も多く、看護部では独自に「ママさんナース交流会」を開催しています。

子育ての情報交換を行うなど、定期的に交流することで、仕事上のコミュニケーションにも役立っています。

■活躍している職員からのメッセージ

小学1年と3歳の子どもがおり、出産前後は産休・育休を取得。未就学児童がいるため、当直勤務を免除していただいています。通常業務に加え、子育てや仕事との両立に関する職員の悩みを軽くしたいと「ママさんパパさん交流会（P4参照）」のワーキンググループの一員としても活動。自身もワークライフバランスについて見直す良い機会となっています。

仕事と家庭の両立は、どちらも周囲の理解があって初めて成り立つもの。支えられていることを理解したうえで自己努力し、職場に来たら「ひとりの薬剤師」として、職場を出たら「ひとりの母・妻」としてスイッチを切り替えるようにしています。

今は、子どもの事を優先するようにと考えていますが、今後成長した際には、仕事にかける比重を大きくしていきたいです。

薬剤部　阿久井千亜紀さん
（副主任薬剤師、がんセンター所属）

昨年の12月に妻が出産し、産後2週間の育児休暇を取得しました。休暇中はおむつ替え、入浴、ベビー用品の買い物などの連続でしたが、接する時間が長かった分、子どもも懐いてくれましたし、育児への主体性も得られたと妻も喜んでいます。

今後も夫婦共働きの予定ですので、育児も家事も分担したり協力し合ったりすると思います。医療職の男性職員としては、私が初の休暇取得者だったそうですが、後輩にもこの事について相談されるなど、先陣を切ることができたのかなと感じています。現場の理解は必要ですが、取得できる環境があるのであれば、ぜひ他の皆さんにも取得されることをお勧めします。

リハビリテーション部　井谷祐介さん
（理学療法士）

現場で働く教職員の“声”が重要　男女共同参画推進室　高橋敬子 室長

男女共同参画とは、組織マネジメントの一つです。教育・研究・診療を担う本学では、患者さんのみでなく、教職員や学生もが利用者であると考えます。男女共同参画の取り組みを通し、男女ともに教職員がより働きやすくなることで、各々の仕事に対する意欲向上にも つながり、各自の力が発揮できるのです。しかし、男女共同参画は、私たち構成員だけが 独自に活動しても、適切なサポートを行うことはできません。現場で働く教職員の“声”がとても重要になってきます。実際困っていることを聞くことで、支援が必要な箇所がわかるのです。男女共同参画推進室ができてからは、教職員の声を聞く機会が増えました。今まで、あまりお話しする機会がなかった職種の方々とも意見交換ができるようになりました。相互の立場の理解を深め、気軽に困っていることを言ってもらえるような体制にしていくことが今後の目標です。そして「キャリアアップ意欲の有る者を全力で支援する」ということが、“あたりまえ”である組織でありたいと思っています。

女性医師の活躍は日本の医療の追い風に　男女共同参画本部長　野口光一 学長

学校法人兵庫医科大学では、兵庫医科大学長が男女共同参画推進本部長を務めています。現在、男女共同参画社会の実現は、国の政策としても、21世紀の我が国のあり方を決定する最重要課題として位置づけられています。

本法人では平成26年6月に男女共同参画推進本部および推進室を設置し、男女共同参画推進のための様々な取り組みを行っています。当推進室のもと多職種から成る育児支援ワーキンググループが設置され、また本部長主導のもと女性医師支援プロジェクトも活動をスタートしました。

昨年4月には院内病児保育室を開設する等、保育環境の整備も行っておりますが、今後ともこれらの活動がより効果的に実質的な効果を生み出すよう、継続して取組んでいく必要があると感じております。

もとより大学病院・大学は女性が多く活躍している職場ですが、ご存じの通り女性医師、医学生の割合が以前と比して高くなってきています。女性医師が活躍することにより兵庫医科大学病院のさらなる発展に繋がるだけではなく、日本の医療全体にとっても追い風となるはずです。

学校法人兵庫医科大学は、医師の多様な働き方とキャリア形成支援に取り組むとともに、教職員ひとりひとりが活躍出来る環境、より多様な人材が働きやすい組織を目指して行きたいと考えています。皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

学校法人 兵庫医科大学
広報
vol.240/2017年10月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

INDEX　－ 目次 －

特集　…1
一人ひとりが活躍する“今”を目指して
～男女共同参画に向けた取り組み～

Campus News　…7
・イノベーション活動発表会を開催
・医療人育成研修センター主催で「シミュレーション研修」を開催
・美しいキャンパスと学生が随所に映った神戸市のプロモーション動画が完成
・「サマーコンサート」を開催
・「ふれあい看護体験」イベントを実施
・北京中医薬大学生が短期留学にて日本の医療を学習
・「兵庫医科大学 オープンキャンパス」を開催
・「兵庫医療大学 オープンキャンパス」を開催
・平成29年度大規模地震時医療活動訓練を実施
・リハビリテーション学部保護者会が学生にゴニオメーターを贈呈
・「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ」を今年も開催！
・小児科病棟にて「万華鏡教室」を開催
・ささやま老人保健施設にて納涼祭を開催
・「篠山学園開校式・入学式」に法人教職員が出席
・3キャンパス リハビリテーション関連施設合同セミナー
・宝塚で「第3回市民健康フォーラム」を開催

卒業生の今　…13
地道な取り組みが日本の医療を変える力に
前田 稔彦 さん（平成3年3月卒業）

気になる授業　…15
全学部対象「チーム医療演習」／「早期臨床体験実習」

The Professional ザ・プロフェッショナル　…17
宇宙の神秘を数値で読み解く　～何億光年先の強いエネルギーに惹かれて～
兵庫医療大学　共通教育センター　教授　加藤 精一

課外活動紹介　…18
兵庫医科大学「平成29年度 第69回 西日本医科学生総合体育大会等結果報告」／兵庫医療大学「海鼠祭（大学祭）の準備を進める大学行事実行委員会」

兵庫医科大学・兵庫医療大学の国際交流への取り組み!　…19

表彰および受賞紹介　…21

就任挨拶　…21

平成29年度科学研究費助成事業交付一覧ほか　…22

兵医・萌えの会 状況報告／新教育研究棟建設事業募金 状況報告　…23

チームの力　…24
～多職種で臨床研究をサポート～
学校法人兵庫医科大学「臨床研究支援センター」

主な行事予定（11月～1月）　…24

Campus News

学校法人

～半年間の活動成果を披露～
イノベーション活動発表会を開催

平成29年6月28日、兵庫医科大学3-3講義室において、西宮キャンパス教職員を対象に、イノベーション活動チーム(チーム名：プロジェクト“結い”)による「イノベーション活動発表会～職種を超えたチーム活動による一体感醸成～」を開催しました。太城副理事長の挨拶の後、各所属から選抜された職員で構成したチームAからチームHの8チームが、チームで設定した課題についての調査結果や提案等を発表。その後、中西監事、西岡常務理事からの講評があり、盛会裏に終了しました。なお、今後もチーム活動を継続し、平成29年11月には、最終発表会を開催する予定としています。

学校法人

医療人育成研修センター主催で「シミュレーション研修」を開催

平成29年7月12日と7月19日の二日間、医療人育成研修センターにおいて、「転倒してしまった患者の観察と対応を学ぼう」というテーマでシミュレーション研修を行いました。看護師、臨床検査技師の方が参加し、それぞれの立場で活発な意見交換ができました。受講者からは「応援の呼び方、観察のポイントがわかった」「各部署での環境を見つめ直すきっかけになった」という意見がありました。今後もスキルアップにつながる研修を企画していきますので、ご参加ください。

転倒患者の対応について研修中

1人ずつ学んだことを実践

医療大

美しいキャンパスと学生が随所に映った神戸市のプロモーション動画が完成

神戸の街の魅力を全国に発信するため、神戸市によって企画された『kobebeats PROJECT』。この企画の中で、神戸開港150年の節目にちなみ神戸の若者総勢150人が出演するプロモーションムービーが作成され、神戸に所在する大学である兵庫医療大学の学生、およびキャンパスもこの動画撮影に全面的に協力しました。

兵庫医療大学の綺麗なキャンパス、そして生き生きとした学生たちの様子がおさめられたムービーが平成29年7月中旬より公開されていますので、ぜひご覧ください。

〈kobebeats PROJECT URL〉
http://www.city.kobe.lg.jp/information/public/media/kobebeats/index.html

〈神戸市シティプロモーション動画(youtube)URL〉
https://www.youtube.com/watch?v=tUiwTeFt0zM

大学病院

～今年の催しはフラショー～
「サマーコンサート」を開催

平成29年7月15日午後2時から、兵庫医科大学病院1号館1階ロビーにおいてサマーコンサートを開催。今年は「Hui ‘O Leimomi(フイ オ レイモミ)」の皆さんにフラダンスを披露していただきました。入院中の患者さんやそのご家族、お見舞いの方々など多くの方々が開演前からロビーに集まって来られ、開演時には立ち見の方もいらっしゃるほどの盛況ぶりでした。フラダンスでは、メンバー最年少・11歳のお子さんによる踊りも披露され、その可愛らしい外見と優雅な踊りのギャップに皆さんが魅了されていました。途中、観客の方々とも一緒に踊る曲目を取り入れてもらうなど、アンコールも含め全10曲の美しく優雅な踊りを堪能した1時間を過ごしていただくことができました。

大学病院

～高校生20人が参加～
「ふれあい看護体験」イベントを実施

平成29年7月25日、兵庫医科大学病院で「ふれあい看護体験」イベントを開催しました。毎年恒例となっている「看護の日」にちなんだこのイベントでは、看護職を目指す高校生が一日職業体験をします。看護部では単なる体験にとどまらず“看護の本質”を伝えて感動を与え、さらに“人としての成長”を促す機会になるよう努めています。

例年、夏休み期間中であるにもかかわらず、今年も応募者が多数あり、20名の高校生が参加。それぞれ「チームワークの根幹はコミュニケーションにあること」や「正確・的確な仕事をするために大切なこと」などを学んでいました。看護師になりたいという思いや、受験勉強のモチベーションアップにつながる、よい体験となったようです。

患者さんのケアに参加しました

安全のため患者確認も一緒にしました

学校法人

～JST「さくらサイエンスプラン」事業～
北京中医薬大学生が短期留学にて日本の医療を学習

平成29年4月に国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)によって採択された「さくらサイエンスプラン」事業の一環として、8月20日から26日の7日間、北京中医薬大学から大学生4人、大学院生6人、引率教員1人が本法人へ短期留学のために来日しました。

留学中は、兵庫医科大学病院の内視鏡センターやIVRセンターでの臨床体験をはじめ、ささやま医療センターでは慢性期や高齢者医療の実態を勉強し、兵庫医療大学では、3Dプリンターの薬学的利用、理学療法・作業療法学の総論等の講義を受け、物理療法の実演、急変時での救命措置演習などを体験。学外では、武田製薬の薬草園や理化学研究所等を訪問し、日本文化として篠山の「デカンショ祭」も体験するなど、短い期間ではありましたが大変充実した留学となりました。

兵庫医科大学にて集合写真

兵庫医療大学における演習

■6/27(火)

「平成29年度研究者倫理講習会」が、国立がん研究センター田代志門先生を講師として、倫理指針改正をテーマに開催されました。

■6/30(金)

よこたクリニック 横田直美先生を講師に迎え、「性差漢方、世代別漢方」をテーマに「武庫川カンファレンス」を開催しました。

■7/1(土)

「多職種協働ワークショップ」を医療人育成研修センターと医療安全管理部が共催しました。外部の方にもご参加いただき大変好評でした。

■7/9(日)

「誤嚥性肺炎の予防・治療に不可欠な口腔ケア・オーラルマネジメント研修」をささやま医療センターの職員を対象に開催しました。

Campus News

医科大 ～600人を超える受験生らが参加～「兵庫医科大学 オープンキャンパス」を開催

平成29年8月10日、11日の2日間「オープンキャンパス」を実施し、両日で600人を超える方々にご参加いただきました。

野口学長の挨拶（10日）、鈴木副学長の挨拶（11日）をはじめ、八木入試センター長による大学・入試概要説明、三好教授による模擬授業『すべての女性が乳がんで悲しまないために－今からできること－』（10日）、篠原主任教授による模擬授業『手術は人体の改築工事～命をつなぐ職人を目指せ！』（11日）を実施し、どのプログラムも盛況でした。

そのほか、シミュレーター体験ツアー、内視鏡シミュレーター体験、在学生交流コーナー、ドクターズカー・ＤＭＡＴカー見学なども好評で、本学について理解を深めていただける機会となりました。

大学・入試概要説明

受付

キャンパス見学（解剖実習室）

シミュレーション体験ツアー（気管挿管）

内視鏡シミュレーター

ドクターズカー・DMATカー展示

医療大 ～学生スタッフが大活躍～「兵庫医療大学 オープンキャンパス」を開催

平成29年8月5日、6日、19日、20日の4日間にオープンキャンパスを開催し、高校生・受験生や同伴者、合わせて約3,000人の参加がありました。

オクタホールで行った「大学全体ガイダンス」「日替わり特別イベント」や、実習室で行った学部学科イベントなどのプログラムはどれも好評で、学生スタッフが中心となり兵庫医療大学の学びや学生生活を存分に伝えることができました。

参加した高校生・受験生からは「学生の方が優しくてすごく楽しかった！」「きれいなキャンパスで勉強しやすい環境だと思いました」などの感想が寄せられました。

＜日替わり特別イベント＞
8/5（土）「そっか、医療って1人じゃできないんだ」
8/6（日）「入試対策講座　数学Ⅰ・A」
8/19（土）「先輩、こんなカンジです」
8/20（日）「入試対策講座　英語」

薬学部体験実習

看護学部体験実習

共通教育センター展示

理学療法学科体験実習

作業療法学科体験実習

初登場のフォトフレーム

大学病院 平成29年度 大規模地震時医療活動訓練を実施

平成29年7月29日、内閣府主催による南海トラフ地震を想定した大規模地震時医療活動訓練の一部が兵庫医科大学病院にて行われ、当院の教職員も参加しました。訓練では、兵庫医科大学病院DMAT1チームが医療資器材を大阪国際空港に搬送し、SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）設置を実施。一方、院内では津波による浸水被害を想定し、外部の支援DMATの受入訓練、輸血・薬剤・医療機器のオーダー訓練及び患者搬送訓練等を行いました。

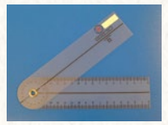
参加者からは「当院が被災し、外部の支援を受ける想定を検証する良い機会となった」との感想がありました。

院内状況を支援DMATに伝達している様子

医療大 リハビリテーション学部保護者会が学生にゴニオメーターを贈呈

平成29年5月に、兵庫医療大学 リハビリテーション学部保護者会よりリハビリテーション学部2年次生（10期生）に、氏名入りゴニオメーター（関節角度を測定する器具）が贈呈されました。以下は学生一同からのお礼のメッセージです。

「この度は、私達リハビリテーション学部10期生にゴニオメーターを贈呈していただきありがとうございました。大学だけでなく家でも練習ができるようになり、とても嬉しいです。自分達の名前が入っているこのゴニオメーターを使ってこれからも頑張ります」


贈呈されたゴニオメーター

贈り物に喜ぶ理学療法学科2年次生

ゴニオメーターを手に持つ作業療法学科2年次生

学校法人 ～医療や健康について学べる体験型イベント～「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ」を今年も開催！

学校法人兵庫医科大学は、平成29年8月25日から27日まで、最新の医療や健康づくりについて楽しく学ぶことで健康意識を高めてもらうことを目的とした体験型イベント「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ～遊んで学んで広がる健康の絆～」をハービスHALLで開催しました（共催：国立大学法人神戸大学、阪神電気鉄道株式会社）。

昨年に続いて2度目の開催となった今年は、兵庫医科大学病院や兵庫医療大学だけでなく、ささやま医療センターのスタッフもブース運営に参加し、3キャンパスの力を合わせて、医療総合大学としての強みを生かした様々な催しを実施。結果、今年も計1万人以上もの人々が来場されるなど大盛況のうちに幕を閉じました。

子どもも大人も聞き入った講演

気分はお医者さん！手術のシミュレーション体験

チーム医療をPR！模擬カンファレンス

早く完成できるかな？コース立方体

タイトル	内容	担当
リハビリ・アイランド	リハビリロボットや車椅子の体験、複数の医療従事者によるチーム医療を体感できる模擬カンファレンスなど	兵庫医科大学病院 リハビリテーション部 兵庫医療大学 リハビリテーション学部 ささやま医療センター リハビリ科
IVRゾーン	カテーテルを使った手術体験、機器の展示など	兵庫医科大学病院 放射線科
“AEDってなぁに?” ～救命救急を体験しよう～	子どもたちを対象にしたAEDの使用体験	兵庫医療大学 リハビリテーション学部・薬学部
ウェルネスチェックラリー	握力測定、視空間認知テスト、ロコモチェック、もぐらたたきゲームなど	兵庫医療大学 リハビリテーション学部
キッズファーマシー ※株式会社キリン堂と共同運営	専用の機械を使った調剤体験や、白衣記念撮影など	兵庫医療大学 薬学部
講演「虫はすごいぞ!こわくない!!～知っておきたい虫による皮膚病のおはなし～」	昆虫の種類や生態、人への被害、対処法など	兵庫医科大学病院 皮膚科 夏秋 優 准教授
講演「なんでも食べられるからだを作ろう!～食物アレルギーのおはなし～」	食物アレルギーの原因や症状、診断方法、食事療法など	兵庫医科大学病院 小児科 福田 典子 助教

■7/14（金）

兵庫医療大学にて「全国同時七夕講演会」を開催。共通教育センター加藤教授が「宇宙ジェット」と題して講演を行った後、天体を観測しました。

■7/15（土）・16（日）

アウトカム評価や学習成果基盤型教育、篠山キャンパスでの教育をテーマとして、「医学教育ミニ・ワークショップ」を開催しました。

■7/21（金）

兵庫医科大学にて4年次生が「トリアージ訓練」を実施。学生は医療者役と傷病者役に分かれて、真剣な眼差しで訓練に取り組みました。

■7/24（月）

兵庫医科大学病院で院内感染の予防を目的に、今年も「クリーンハンドキャンペーン」を実施。すべての病院職員が改めて手洗いの基本を学びました。

Campus News

大学病院 小児科病棟にて「万華鏡教室」を開催

平成29年8月18日、ガリレオクラブインターナショナルによる小児の患者さんを対象とした万華鏡教室が小児科病棟にて開催されました。始めに、万華鏡にまつわるお話を聞き、クイズに挑戦しました。万華鏡づくりでは、好きな色のビーズを入れ、シールやペンなどを使って飾り付けをし、自分オリジナルの万華鏡づくりを楽しみました。参加した子どもたちは、出来上がった万華鏡で、カラフルな模様が次々と変わっていく様子を興味津々に覗き込み歓声をあげたりしました。

プレイルームでの開催後、病室を離れることのできない子どもたちのために病室を訪問。ここでも万華鏡を楽しむ子どもたちの笑顔があふれ、ご家族にとっても楽しいひと時となりました。

ささやま ささやま老人保健施設にて納涼祭を開催

平成29年8月27日に「第18回ささやま老人保健施設納涼祭」を開催しました。

毎年恒例の篠山産業高校ブラスバンド部による演奏、屋台スイーツ＆新家理事長による似顔絵コーナー、最後にはデカンショ踊りと、たくさんの催しが行われました。

今年は、職員による歌謡ショーや手作りミックスジュースが大盛況で、あらゆる方面から、笑い声や『おいしい！』という声が多く聞こえていました。利用者の皆様は、家族や職員との楽しい夏の思い出を作ることができました。

みんなで楽しく!デカンショ音頭

篠山産業高校ブラスバンド部による演奏

職員が作る屋台も大好評

理事長も先生もお揃いの法被で

ささやま「篠山学園開校式・入学式」に法人教職員が出席

平成29年9月1日、介護福祉養成施設「篠山学園」が旧篠山産業高校丹南校跡地に開設され、学校法人兵庫医科大学から新家理事長や太城副理事長をはじめ多くの教職員が招待を受けて開校式・入学式に出席しました。

日本では、今後少子高齢化が進み介護福祉士が不足する見込みであることから、篠山学園は、ベトナムなど海外から基本的な日本語会話ができる留学生を積極的に受け入れ、2年間の介護教育を実施。兵庫医科大学篠山キャンパスでは実習等の受入れ協力を行います。

学校法人 3キャンパスリハビリテーション関連施設合同セミナー

平成29年8月26日、兵庫医療大学オクタホールにて「第8回 学校法人兵庫医科大学 リハビリテーション関連施設合同セミナー」を開催しました。

このセミナーは、法人内の兵庫医科大学、ささやま医療センターの各リハビリテーション部門、および兵庫医療大学リハビリテーション学部と、学校法人兵庫医科大学連携病院の会やリハビリテーション学部実習施設などのリハビリテーションスタッフが、教育・研究・診療に係る取り組みについて情報を交換・共有し、相互に研鑽を図ることを目的として開催しています。

今回は、和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座教授の田島 文博先生による「障がい者スポーツからパラスポーツへ」と題した特別講演や、各施設が日頃の臨床・研究成果の報告を行った一般講演などを実施。教職員とリハビリテーション学部の4年次生や医療科学研究科の学生、他施設からの参加者など、合わせて200人以上の参加があり、時には活発に意見を交換して交流を図りました。

大学病院 宝塚で「第3回市民健康フォーラム」を開催

地域の皆さんが病気について正しく学び、予防や健康の維持に役立てられるよう、平成29年9月2日、宝塚市立文化施設ソリオホールにて「第3回兵庫医科大学病院　市民健康フォーラム」を開催しました。

今回は「産婦人科のがん治療最前線～女性に優しいがん治療～」をテーマに、産科婦人科の3人の医師が講演を行いました。当日は、宝塚市、西宮市に在住の皆様を中心に、145人の方が聴講されました。

アンケートでは、9割以上の来場者が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答し、多くの来場者が「満足している」と回答するなど大変好評でした。

こうした声を受け、兵庫医科大学病院では、地域住民の皆様のお役に立てるよう、今後も「市民健康フォーラム」を開催する予定です。

演 題	講 師
「子宮頸がん・子宮体がんと早期治療～早期発見をするためには～」	兵庫医科大学病院　産科婦人科 助教 井上佳代
「卵巣がん、子宮頸がん、子宮体がん～ここまで進んだ治療法～」	兵庫医科大学病院　産科婦人科 准教授 鍔本浩志
「女性のがんと不妊症治療～注目される画期的な治療法～」	兵庫医科大学病院　産科婦人科 講師 福井淳史

■7/26（水）

「第9回阪神沿線健康講座」を大阪・梅田のハービスENTで開催。今回のテーマは「腸内細菌とヒトの病気」で、97人の参加がありました。

■7/28（金）

兵庫医療大学にて防災訓練を実施し、多くの学生と教職員が参加しました。また、兵庫医科大学では6/23に自衛消防訓練を行いました。

■8/30（水）

兵庫医療大学にて、排尿障害や尿失禁の予防体操を市民に学んでいただく「健康みなおし教室～トイレに悩む前に～」を開催しました。

■9/7（木）

兵庫医療大学 看護学部3年次生を対象に社会人スキルガイダンスを実施。医療職者として必要な接遇について学びました。